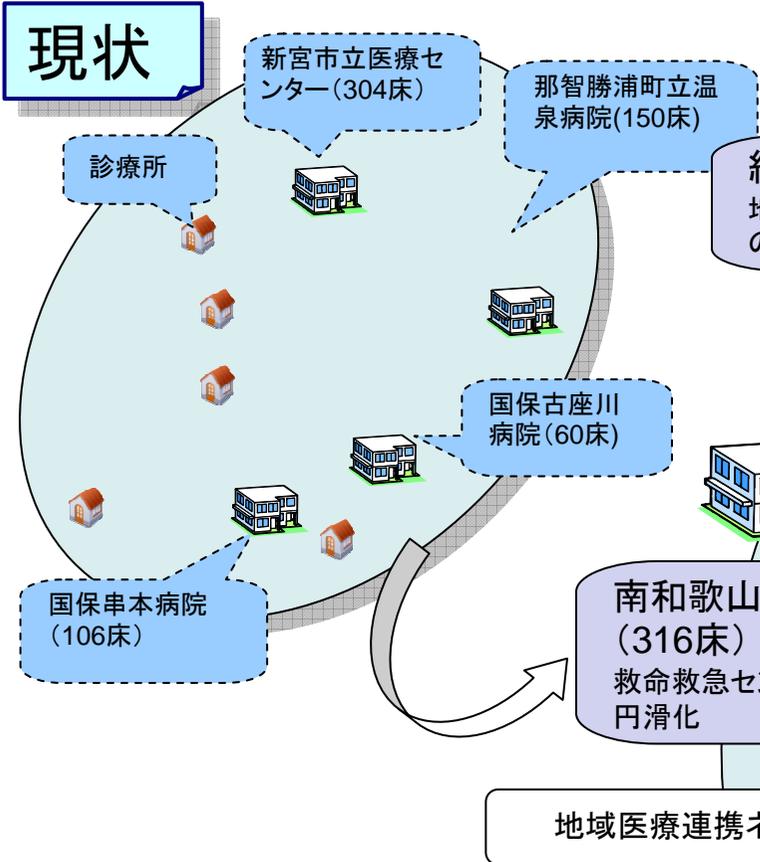
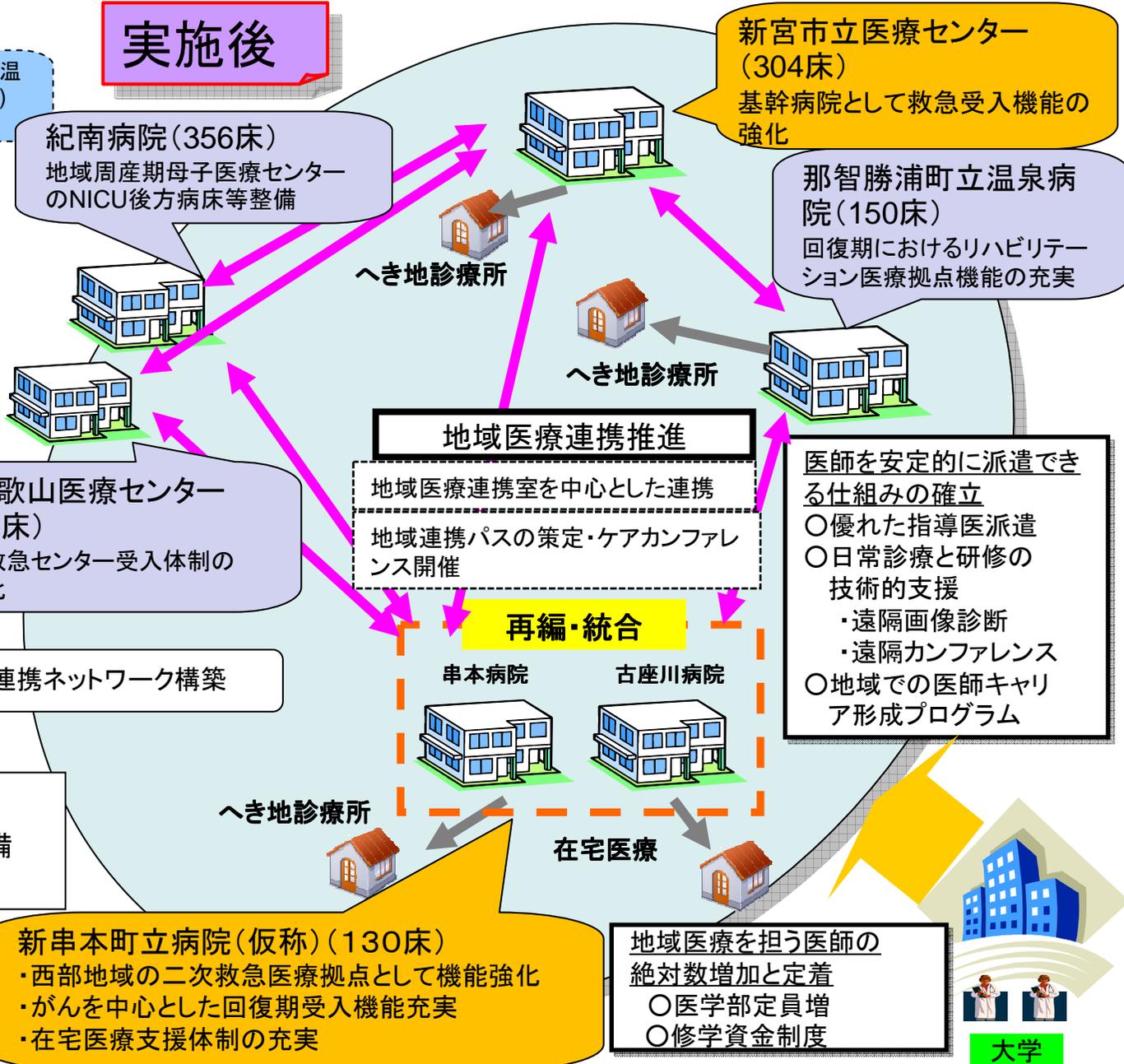


和歌山県地域医療再生計画(紀南地域: 医師確保・医療連携に重点化)

現状



実施後



課題

- 医療資源不足により拠点病院の維持困難
- 救急医療・周産期医療体制の体制が未整備
- 深刻な医師等医療従事者の不足

医師を安定的に派遣できる仕組みの確立

- 優れた指導医派遣
- 日常診療と研修の技術的支援
 - ・遠隔画像診断
 - ・遠隔カンファレンス
- 地域での医師キャリア形成プログラム

新宮保健医療圏を中心とした紀南地域における課題を解決する方策

1 課題を解決する方策

- ① 課題 : 医療資源の不足により拠点病院の診療機能維持が困難な状況である。
目標 : 公立病院の機能再編と連携強化により持続可能な医療体制を構築する。
対策 : 新宮保健医療圏における公立病院の再編整備・機能強化事業(14億円)
- (1) 串本病院・古座川病院再編整備事業は、両病院の機能を集約化し、二次救急医療体制及び回復期受入機能の充実を図るための整備に対する支援である。
 - (2) 新宮市立医療センター救急機能強化事業は、当該圏域の基幹病院として、救急受入体制を強化するための整備に対する支援である。
 - (3) 那智勝浦温泉病院連携基盤整備事業は、リハビリテーション医療に係る拠点機能の強化及び急性期医療機関との連携基盤の整備に対する支援である。
 - (4) 地域医療連携推進事業は、各公立病院に設置された地域医療連携室を中心に、地域連携パスを構築するなど、医療機関相互の有機的な連携を図るものである。
- ② 課題 : 救急医療・周産期医療について、受入件数増加等に対応出来る体制整備が必要である。
目標 : 紀南地域における救急医療・周産期医療体制を堅持する。
対策 : 救急・周産期医療体制強化事業(4億円)
- (1) 地域周産期母子医療センター機能強化事業は、周産期医療体制を確保するため、紀南地域で唯一NICU病床を有する紀南病院のNICU後方病床整備等に対する支援である。
 - (2) 救命救急センター機能強化事業は、救命救急センターの受入体制の円滑化を図るため、紀南地域の救命救急センターである南和歌山医療センター敷地内へのヘリポート整備に対する支援である。

新宮保健医療圏を中心とした紀南地域における課題を解決する方策

③ 課題： 地域において医師不足が深刻化しており、医師の定着を促進する環境整備が急務である。

目標： 将来にわたり医師を安定的に確保出来る仕組みを構築するとともに、地域医療を担う医療従事者の確保、連携を促進する。

対策： 1 将来にわたり医師を安定的に確保出来る仕組みの構築(6.3億円)

(1)「地域医療支援センター」による地域医療支援は、県立医大と拠点病院等とし、地域でも診療と研究の両面で医師のキャリア形成が可能な環境整備に対する支援である。

(2)平成22年度医学部定員増員及び修学資金制度設置事業は、へき地医療等に従事する医師を確保するため、医学部入学定員を増員するとともに、一定期間の地域医療従事を返還免除条件とした修学資金制度を設置するものである。

2 地域医療を担う医療従事者確保、連携推進(0.9億円)

(1)看護師確保対策事業は、潜在看護職員を把握するシステム構築・復職支援と、県外で働く看護職員等への継続的な情報提供、県外看護職員合同就職説明会への参加等により県内の医療機関への就職を促進するものである。
研修の実施により看護職員の再就業を支援するための事業である。

(2)在宅歯科診療体制整備事業は、へき地を抱え高齢化が進む当該圏域において、円滑に在宅歯科診療を実施するため、必要な整備に対する支援である。

(3)在宅医療に係る医薬連携推進事業は、無菌調剤施設を備えた基幹薬局の整備や研修、薬剤処方歴の共同管理等活用推進に対する支援である。

2 地域医療再生計画終了時の姿

医療機関の再編や機能強化・連携促進により、限られた医療資源を有効活用しつつ医療水準の向上と持続可能な医療体制を構築し、県民が安心して必要な医療サービスを受療出来る体制を堅持する。